

平成21年9月

松田明子 学位論文審査要旨

主査 村脇義和
副主査 大坪健司
同 長谷川純一

主論文

Upregulation of mRNA of retinoid binding protein and fatty acid binding protein by cholesterol enriched-diet and effect of ginger on lipid metabolism

(高コレステロール食によるレチノイド結合蛋白と脂肪酸結合蛋白mRNAの発現亢進及び生姜の脂質代謝に対する効果)

(著者：松田明子、王中志、高橋俊作、徳田卓裕、三浦典正、長谷川純一)

平成21年 Life Sciences 84巻 903頁～907頁

審査結果の要旨

本研究は、ラットに高コレステロール食を与えることにより高脂血症、脂肪肝を発症させ、肝および脂肪組織における脂質代謝関連遺伝子であるレチノイド結合蛋白 (RBP)、心臓型脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)、皮膚型脂肪酸結合蛋白 (C-FABP) mRNA発現の変化を検討したものである。その結果、高脂血症ラットの脂肪組織でH-FABP mRNAの発現が増加していることを初めて見いだした他、肝のRBP mRNA、脂肪組織のRBP、C-FABP mRNAの発現も増大することを確認した。さらに脂質代謝改善効果が期待される生姜について、それらの遺伝子発現への影響は軽微であったものの、脂肪肝の所見を改善する事を確認した。本論文の内容は、高コレステロール食と脂質代謝関連遺伝子変化の関係を明らかにしたのみならず、高脂血症の代替医療分野において、明らかに学術水準を高めたものと認める。